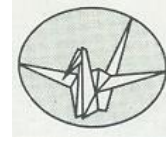




被団協



● 発行所
 北海道被爆者協会
 札幌市白石区平和通
 17 丁目北 6-7
 北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内
 TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

「79 年目の原爆死没者追悼会」 核兵器も戦争も 絶対いけないと強く訴える

79 年目の広島原爆忌。この日、1961 年から続けられている原爆死没者北海道追悼会が札幌市内のホテルで開催されました。遺族、被爆者、実行委員会、市民など約 110 名が集いました。

協会としては最後の追悼会、開会挨拶で廣田会長は核兵器も戦争も絶対いけないと強く訴えました。来賓挨拶、青年の明日への誓いの後、鎮魂のフルート演奏



の中、献花・献水をし、北海道合唱団の「ねがい」「原爆を許すまじ」を唱和して第一部を終えました。

第二部は被爆者の思いを受け継ぐつどい。4 歳 8 か月で被爆した大村一夫さんは、被爆は惨状惨劇だけが問題ではない、助かって終わらないのが核兵器の真の脅威だ、と自身の歩みを語りました。なお来春協会解散した後は被爆者連絡センターが

活動を引き継ぎます。



日登寺では 原爆の火を囲む集い



この日札幌市西区の日登寺では約 100 名が参加して原爆の火を囲む集いが行われました。8 時 15 分に黙祷、次いで金子廣子さんが家族 8 名の被爆と自

身の戦後の苦労のを語りました。原爆の火を核兵器廃絶をめざす平和のかがり火に、との横山博子実行委員長の閉会の訴えを参加者一同心に刻みました。

「赤紙」配り 戦争反対訴える

「終戦」記念日の 8 月 15 日、平和婦人会など札幌平和行動実行委は札幌駅南口広場で、「赤紙（臨時召集令状）」のコピーを配り、再び戦争する時代にはいけないとリレートーク。被爆者の宮本須美子さんは逃げ惑うウクライナやガザの人びとは 79 年前の私たちが、戦争に正義の戦争はないと強く訴えました。

